

## 「奈良高山里山＝学研高山地区第2工区」のあり方 ～「社会課題解決（里山の保全活用）型事業」の推進を！～



【1】学研高山地区第2工区（略称：第2工区）は、**生駒市の面積の約5%**を占める、生駒北部に広がる、「奈良高山里山」と呼ばれる**広大な里山**です。その面積（約288ha）の約4割は民有地（地権者約1000人強）で、約6割はUR（都市再生機構）から来年度末までに**市に有償移管**されます。

【2】広大な里山の第2工区がどうなるかは生駒市の未来を左右します。そこで、「学研高山第2工区のあり方を考える生駒市民の会」の皆様と共に、昨年度から、**第2工区のあり方を考える取り組み**を次のようにおこなってきました。

- ①国営“あいな里山公園”里山体験会
- ②里山保全活用先進地（京都府木津川市木津北地区）見学調査
- ③耕作放棄地活用事業見学調査      ④第2工区現地調査
- ⑤2回にわたる「“奈良高山里山＝第2工区”のあり方」を考えるつどい

### 藻谷浩介氏講演会の報告記事 （抜粋／青字は引用者による）

2017年9月29日／奈良日日新聞 記者 梶田智規

……約20年もの間、「塩漬け状態」となっている生駒市高山町の学研高山第2工区について市は、「学研高山地区第2工区まちづくり検討有識者懇談会」での意見を集約し、「たたき台」として発表した。だが6回にわたり開かれた同懇談会は、すべて非公開で実施され、地元住民や地権者を無視した意見集約に怒りの声が噴出。また市の財政負担についての議論もなく、「机上の空論による“夢物語”」と揶揄する声も聞かれる。……65歳以上の高齢者がどんどん増えているという点では、全国的に問題視されている「高齢化」が同市でも変わらず加速しており、年金や介護費用の確保、税込減への対応がより必要になる。先月、「学研高山第2工区のあり方を考える生駒市民の会」が、地域エコノミストの藻谷浩介氏を講師に招き、「生駒と、その里山の未来！」と題した講演会を開いた。同会は同区の今後のあり方を、**里山の保全と活用を主体とすべきか、さら**  
**地を造成して開発を主体とすべきか**を考える市民団体。参加した市民の多くが藻谷氏へ積極的に質問をぶつけており、まちづくりへの意欲が伝わってきた。市が発表した案では、「都市と自然環境の共生」を基本的なまちづくりの方向性とし、幹線道路や学術研究・産業施設などを建設する方針。これに藻谷氏は「シャープは山の中に研究型の工場を建設して失敗した。今は都会の隙間につくるのが主流。時代に合っていない」とはっきり。「ただ人やものを集めても、将来必ず苦しくなる」と述べ、「高齢者が若者と交流できる環境づくりが重要。生駒市であれば里山の自然を生かして交流拠点として活用し、健康な高齢者を増やして、地域に貢献してもらうことが大事」と訴えた……。



里山の**保全と活用**を主体とすべきか



更地を造成して**開発**を主体とすべきか

【3】【2】の取り組みの結果、**第2工区のあり方の方向性を打ち出した「里山保全活用のため『里山保全活用型事業』の推進を！」**を取りまとめることができました。それを次に抜粋掲載いたします。

## 里山保全活用のため 「社会課題解決（里山保全活用）型事業」の推進を！

### 【1】里山の保全活用とは

(1) 里山の保全とは、**開発（地形を改変する／つまり、山を削り、谷を埋めること）**はしないで、同時に荒廃も防ぐこと。

(2) 里山の活用とは、**里山の恵みを楽しむ**こと。里山の**耕作放棄地の有効利用**も含む。

#### 里山の恵みとは

コメ・野菜・果樹・きのこ等の農林作物／お花見・紅葉狩り・里山幼稚園等の遊び保養学び育ちの場／水源涵養など環境保全／生物多様性

### 【2】里山保全活用の3つの手法

(1) あまり手を加えないで保全活用する手法（**遷移せんい誘導型管理**）

これは、順調な遷移（里山が原生林に戻っていくこと）を阻害するツルの繁茂等を排除する程度の管理を加え、あとは自然の遷移にまかせることで生物多様性を維持し、その恵みを楽しむ手法。

(2) 人力により手を加えて保全活用する手法（**里山保全活用活動**）

(3) 最小限の機械力により手を加えて保全活用する手法

①**里山保全活用型公共事業**      ②**里山保全活用型事業**

#### 里山保全活用型事業とは

①**社会課題解決型事業**（ソーシャルビジネス）の1つ／**里山ビジネス**ともいう

②**開発（地形を改変する）**の手法をとらずに里山を保全活用することで**適度の収益を上げる事業**。里山資本主義～巨大資本ではなく**地域資本**（地域のお金・人材・資源）が**地域経済**（地域の人々の幸せのために人材・資源が活用され地域で お金が循環すること）を動かすこと～ともいえる。

③**第2工区においてこの事業を展開することで、地代等というかたちでその収益を地権者に分配・還元でき、地権者被害（所有地を有効に用益・処分できないこと）を解決に導くことができる事業。**

### 【3】第2工区の保全活用の手法

(1) 第2工区では、**市有地**と**民有地**が**モザイク状に混在**している。

(2) 里山保全活用型公共事業は財源確保上、当初よりの推進は困難。

(3) (1) と (2) から、市有地と民有地にまたがった**里山保全活用型事業を保全活用の主体**とし、それが推進できない区域では、里山保全活用活動、それもできないところは遷移誘導型管理をおこなう。

## 【4】里山保全活用型事業について

### (1) 資金調達の方法

#### ①社会的投資・・・社会課題（社会問題）解決のための事業への投資

- A. 社会的責任投資・・・社会性に十分配慮した投融資
- B. インパクト投資・・・大きな社会的インパクト（成果）が見込まれる場合の投融資
- C. ベンチャー・フィランソロピー（人類への貢献）・・・譲渡性の資金の提供と経営支援
- D. 寄付・・・経済的リターンは求めない、社会課題の解決という社会的リターンを得るための投資といえる
- E. クラウドファンディング（ソーシャルファンディング）

#### ②各種補助金・助成金 ③ソーシャルビジネス支援資金、など。

### (2) 里山保全活用型事業の事例

里山遊園事業（冒険の森・冒険遊び場・ながいながいすべり台・ツリーイングなど）／里山ガーデン事業（花しょうぶ園・菜の花畑大迷路・れんげの大草原など）／里山公園（里山生活体験）事業／都市型農業経営事業（有機自然農法でコメ・野菜・果樹を栽培し宅配・直販）／付加価値の高い農林産物の製造販売事業／養蜂、など）／マツタケ山経営事業／エミュー・羊牧場／里山カフェ・里山レストラン、など。



里山保全活用事業＜冒険の森（福井県池田町）＞  
ジップライン：長さ990m／60分／3700円（税込）

(3) 里山保全活用型事業は、**地権者被害の解決と里山の保全（自然破壊の防止）の両立**を実現するもので、また、行政にとっても**地域経済循環率の向上や税収と雇用の増大**をもたらす歓迎すべきものであり、地権者・市民・行政の3者にとって喜ばしい、**CSV（Creating Shared Value／共通価値の創造／三方よし）**の手法である。

## 【5】なぜ、「開発」主体でなく「里山保全活用型事業」主体なのか

(1) 少子高齢化社会における持続可能な都市づくりのためには、**従来の拡大成長型といわれる計画から縮小再編型の計画に転換**し、また、大都市の大資本にお金が流れ込む経済ではなく**地域循環型経済**（地域でお金が循環する経済）を構築していかねばならない。

(2) **学研高山第1工区（略称：第1工区）**の現状・・・98(H10)年3月に第1工区にオープンしたNEC中央研究所生駒拠点（NEC関西研究所）は、14(H26)6月に「ICTを活用した高度な社会インフラを提供する（中略）社会ソリューション事業の分野で（中略）必要とされる企業としてNECが**成長していくために**」**撤退（逆開発）**した（「」内は、NECから市への撤退通知文書より）。また、93(H5)年2月に第1工区（9区画）の基盤整備が完了してから4半世紀（25年）も経つというのに、4区画が**未だに空き地**である。以上でわかるように、**学研高山 地区には今以上の「開発」に応えるポテンシャル（力）はない。**

【6】以上から、**「里山保全活用型事業」の推進こそ第2工区のあり方**といえる。

<事例 社会問題解決型(里山保全活用型)事業(ビジネス)>



<エミューの卵を素材にした芸術作品>  
 ~エミュー牧場も里山(休耕地活用)ビジネス~